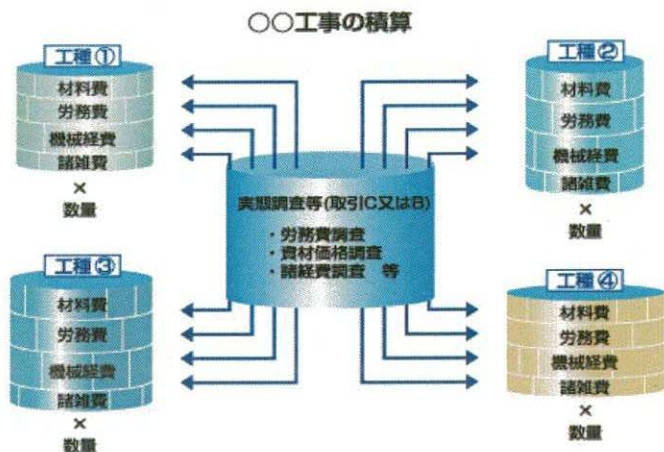


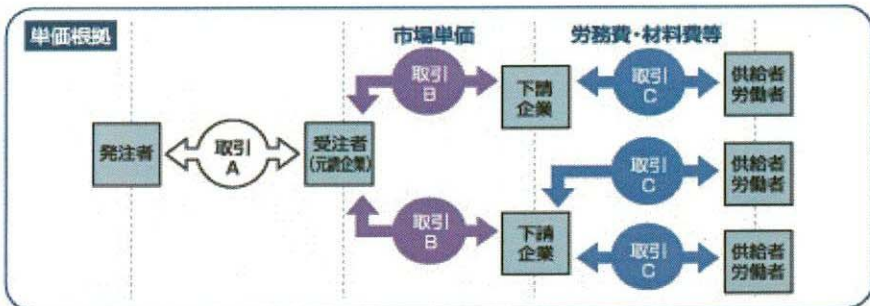
ユニットプライス型積算方式の概要

現行積算(積上)方式

これまでの積算方式は、各工事の各工種毎に、施工プロセスを想定し、必要な材料費・労務費などを一つずつ積み上げています。

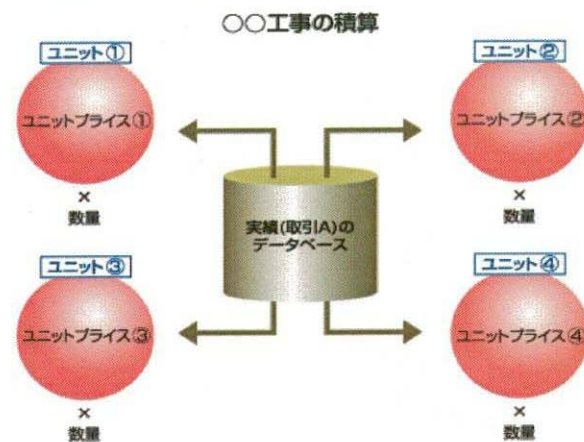


下請企業と材料等供給者・労働者との取引価格(取引C又はB)を調査しています。

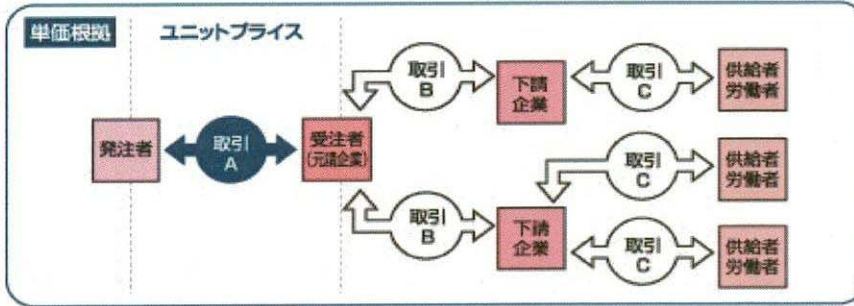


ユニットプライス型積算方式

新しい積算方式は、受注者(元請企業)と発注者が総価で契約した後、ユニット毎に合意した価格を、発注者がデータベース化していき、ユニット毎に実績のデータベースの単価(ユニットプライス)を用いて積算します。



発注者と受注者(元請企業)との取引価格(取引A)を蓄積・分析します。



ユニットプライス型積算方式への転換による効果

現行積算(積上)方式に対し、ユニットプライス型積算方式は、5つの効果が期待できます。

現行の積み上げ積算方式

下請企業と資機材供給者及び労働者との取引を聞き取り等により、労務単価・資材単価を調査

発注者が施工のプロセスを想定して作成した積算参考図書を示すため、受注者は創意工夫の意欲が低下

単価合意しないため、施工量が増減した場合等の契約変更額が不明確
発注者が必要と考える事項について条件明示するため、明示のない条件が変わった場合に変更協議が難航

直接工事費と間接工事費が別々となっているため、工事目的物と価格との関係が不明確

積算業務や労務単価の調査に労力・時間がかかる

効果①

効果②

効果③

効果④

効果⑤

ユニットプライス型積算方式

価格の透明性、説明性の向上

発注者と受注者(元請企業)の取引価格をベースに、発注者が直接、施工単価(ユニットプライス)を調査

民間活力(創意工夫)の導入促進

想定した施工のプロセスを示さないため、受注者の技術力の活用や新工法の採用といった創意工夫の意欲が向上

契約上の協議が円滑化

総価契約単価合意をするため、施工量が増減した場合に、自ずと契約変更額が決定されるなど契約変更手続きが円滑

あらかじめ定められているユニットの条件を明示しているため、条件が変わった場合に変更協議が円滑

工事目的物と価格の明確化

工種毎に直接工事費と間接工事費が一緒になっているため、工事目的物と価格との関係が明確

積算業務の効率化

積算業務、労務単価等の調査の労力・時間が軽減する

つまり、ユニットプライス型積算方式を導入すると

積算段階

発注者は効率
業務効率が
上がります

施工段階

受注者はやりがい
努力が利益に
変わります

供用段階

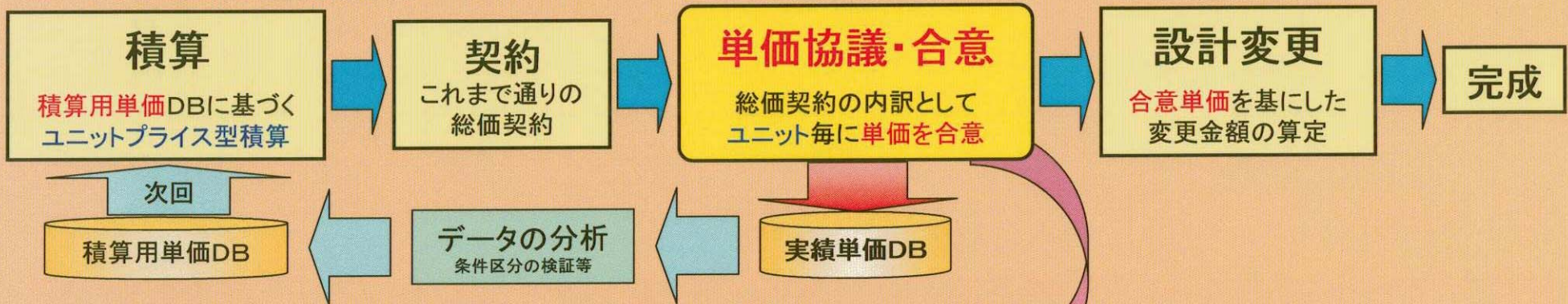
国民は満足
良いものが適正な
価格で実現できます

ユニットプライス型積算における契約

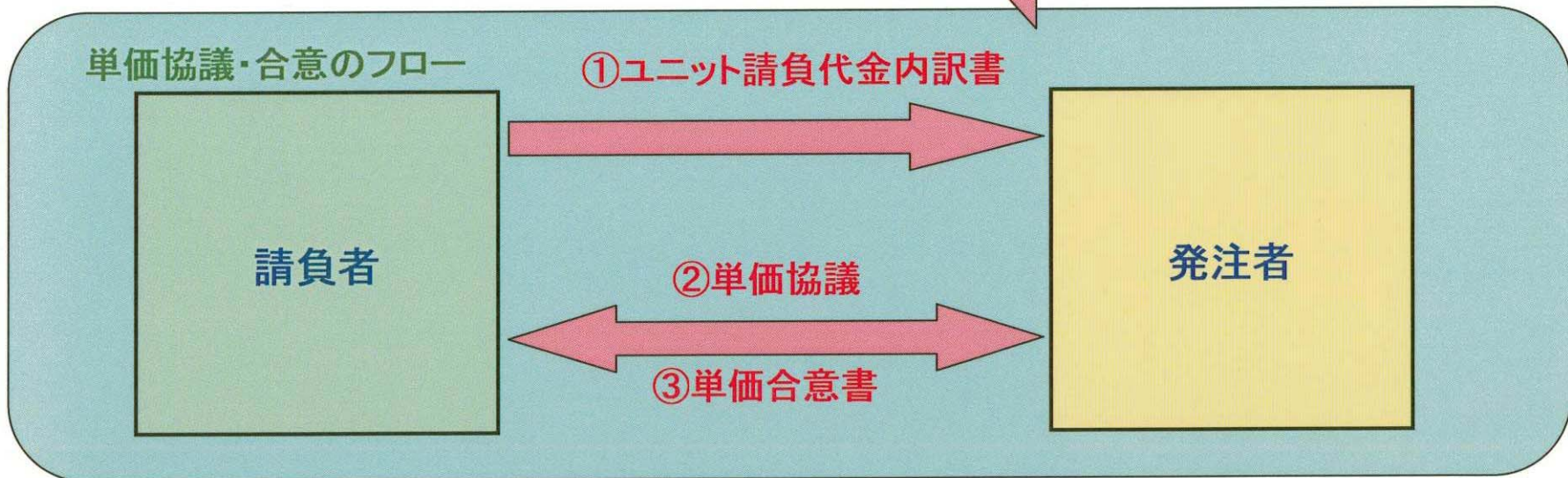
総価契約単価合意方式について

契約後、発注者と請負者間で総価の内訳としてユニット毎に単価の協議・合意を行う。

ユニットプライス型積算方式のフロー

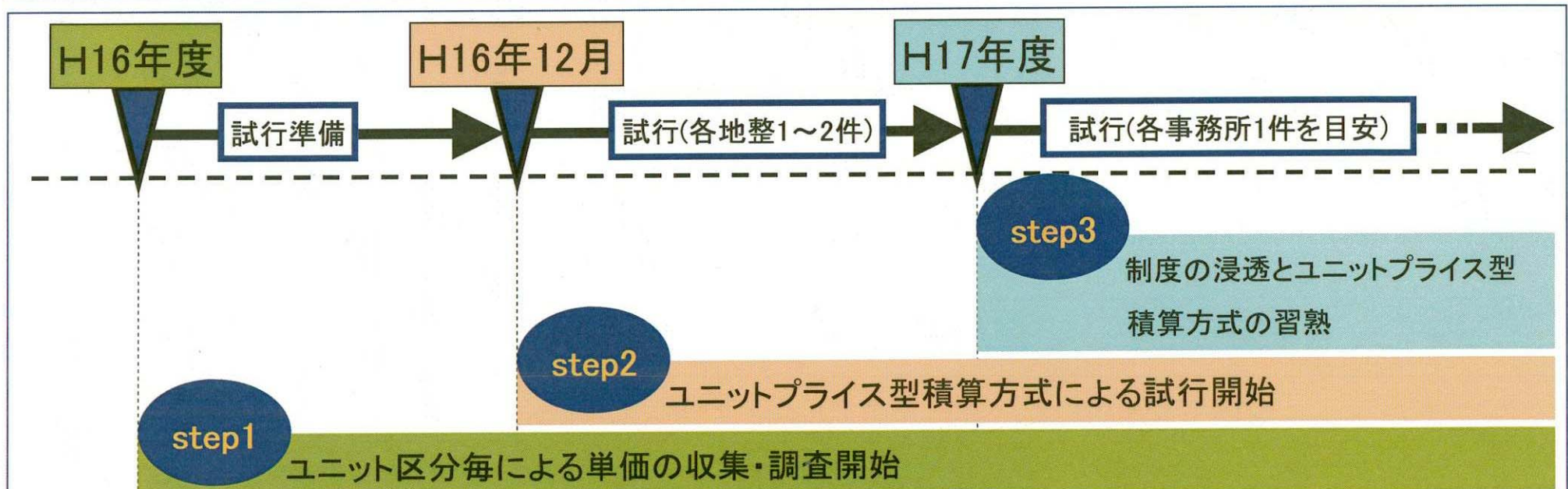


単価協議・合意のフロー



ユニットプライス型積算方式の試行スケジュール

当面は、直轄発注工事において、工事件数の多い工種(全体の約半数)である、舗装工、道路改良工、築堤・護岸工について試行を行います。



※ユニットプライス型積算方式の試行は舗装工から着手し、続いて道路改良工、築堤・護岸工と順次拡大していきます。

試行による確認事項

机上検討では想定出来ていないケースがあり、問題が発生することが考えられたため、試行を通して課題を抽出・修正する。

- ①条件明示内容及び方法の検証
- ②補正方法の検証
- ③プライスの更新手法の確認
- ④妥当性検証方法の確認
- ⑤単価合意及び契約変更方法の確認
- ⑥積算手順の確認